

# 事例 1 資料

平成 29 年 11 月 10 日  
生涯学習審議会

茅ヶ崎市松林地区まちぢから協議会 「ふくろう塾」  
－ 「地域と学校の連携・協働の推進について」 －

天井 勝海

## ◇ はじめに

- (1) 取材日時 平成 29 年 9 月 19 日 11 時～12 時 30 分
- (2) 取材先 茅ヶ崎市松林地区まちぢから協議会子ども部会「ふくろう塾」
- (3) 対応 茅ヶ崎市総務部市民自治推進課地域自治担当  
茅ヶ崎市松林地区まちぢから協議会子ども部会 部会長・副部会長

## 1 まちぢから協議会について

(茅ヶ崎市 HP

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/shiminsanka/1007706/1007867.html> 参照)

## 2 松林地区まちぢから協議会

- (1) 地域の特徴
  - ・松林公民館の位置する室田地域⇒近年急速な宅地開発
  - ・従来の田園地域の景観が一変⇒若年層を中心とした家庭の増加
- (2) まちぢから協議会の設置とねらい
  - ・平成 26 年 7 月 設立
  - ・平成 28 年 7 月 茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例に基づき認定
  - ・地域における課題解決のため、松林地区の代表組織として新たな地域コミュニティを形成し、自主的且つ主体的に活動するとともに、市と協働し、住みよい地域社会を構築することを目的とする
- (3) 運営委員会の組織

地区内に存するの上赤羽根自治会など 9 つの自治会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、体育振興会、青少年育成推進協議会、PTA、青少年指導員、環境指導員、防災リーダー、協議会推薦委員、公募委員などから構成 ⇒横断的・総合的な組織

## 3 「子ども部会」の事業

- (1) 「おむすび松林」
  - ・子育てに不安を抱える親子が孤立しがち⇒子育て支援
  - ・地域の居場所づくり事業・軽食とくつろぎの場
  - ・子育て世代が気軽に話し合え相談できる場所

- ・地区内の空き家を借用
- ・平成 28 年 10 月から活動開始・月 2 回 11 時～16 時まで
- ・子ども部会の会員や PTA 役員や地域のボランティアが運営
- ・高齢者、小さな子どもを持つ母親などが参加（20 名を超える参加）
- ・新たな地域の交流の場として定着

#### (2) 「ふくろう塾」

- ・学習支援活動
- ・夕食支援活動

### 4 「ふくろう塾」について

#### (1) 「ふくろう塾」の活動の開始の背景とねらい

- ・活動開始のきっかけ  
⇒公民館周辺で夜遅くまで集まっている中学生の居場所づくりを模索
- ・活動の開始 平成 28 年 4 月
- ・地域の中学生を対象とした学習支援活動・夕食支援活動
- ・中学校から地域の力を活用できないかとの地域への相談  
⇒松林地区まちぢから協議会が塾の立ち上げを準備

#### (2) 事業の認定

- ・「子どもの居場所づくり」としては、「茅ヶ崎市地域コミュニティの認定に関する条例」で最初に認定された事業
- ・条例に基づき事業認定⇒活動資金としての特定事業助成金を受ける

### 5 組織と運営

- (1) 松林地区まちぢから協議会の子ども部会
- (2) 部会の組織⇒部会長、副部会長、部会員、学習支援指導員、夕食支援活動スタッフ
- (3) コアメンバー⇒4～5人・毎回の支援者やスタッフは10人前後
- (4) 無報酬のボランティア（地域の一般の方々や元教員や教職経験者など）

### 6 対象の生徒と活動場所

- (1) 対象の生徒
  - ・地区内の3校の中学校 1・2年生が対象
- (2) 募集方法
  - ・地区内の3校の中学1年生に回覧配布
- (3) 活動場所
  - 松林公民館（松林中学校に近い位置に立地・調理室が設置）

#### (4) 学習支援の講師

塾の元講師、民生委員、チャイルドラインの電話相談員、大学生など地域に居住の多様な方々が支援

### 7 活動日時

#### (1) 活動日時

- ・月2回(水曜日・土曜日)を原則
- ・時間 18時～20時(18時～19時までは夕食)

#### (2) 平成28年度実績

- ・延159人 平均14.4人
- ・松林中学校1年生が対象
- ・子どもの安全確保の方法⇒市民活動等災害補償制度を適用

### 8 学習支援活動の内容と特色

#### (1) 実施と活動の内容

- ・個別指導型の学習支援
- ・各生徒の自主性や主体性を尊重
- ・教材などの面で学校からの協力がある

#### (2) 活動の特色

- ・参加はもちろん勉強も強制はしない
- ・生徒の主体性を尊重
- ・各自が教材を持ち込み、分からないところを質問しながら学習
- ・「参加することで子どもたちは地域の大人と顔がつながり、大人は子どもたちの見守りができる。多くの大人とつながることで子どもたちの世界観が広がればうれしい」(N氏)

#### (3) 財源と必要経費

- ・条例に基づき事業認定⇒特定事業助成金 約15万円
- ・主に教材や広報活動などの印刷費

### 9 夕食支援活動の内容と特色

#### (1) メニュー

- ・普段の家庭での夕食に近づけたメニュー
- ・カレーライスは定番・サラダ・果物・デザート
- ・季節の特別なメニューも取り入れる
- ・通常は2～3人で準備

#### (2) 食材

- ・特定事業助成金から支出
- ・地域からの提供(周辺地域に農家も多い)

### (3) その他

- ・子どももお手伝い
- ・回数を増やしてほしいとの希望あり

## 10 取り組みの学校や地域等に対する効果・影響

### (1) 取り組みの学校や地域に対する効果

- ・学習支援活動の学校からの依頼の実現⇒学校との連携
- ・学校と定期的な情報の交換⇒学校との協働
- ・学校と地域との連携の深まり（校長なども時折参観）
- ・公民館周辺地域の生徒指導上の課題の解決
- ・不登校や非行など生徒指導上課題のある生徒の居場所づくりの実現
- ・公民館施設の活用と多様な人々との出会い
- ・第三の居場所づくり

### (2) 取り組みの地域に対する影響

- ・多様な生徒への理解の深まり
- ・「ふくろう塾」の活動への関心の広まりや深まり（活動日の増加の希望、食材の寄付などの増加）
- ・健全育成や食育などへの地域の関心の高まり
- ・活動周知チラシ「ふくろう通信」の発行（「ふくろう塾」実行委員会）

## 11 取り組みの課題

### (1) 取り組みの課題

- ・活動日が少ない（現在は月2回が原則）
- ・小学生も対象にとの希望やその必要性
- ・松林中学校の生徒が中心⇒他の2校の中学校生徒の参加
- ・担当ボランティアの確保
- ・指導員の指導のねらいや方法の違い
- ・一般の塾と「ふくろう塾」の違いの理解
- ・多様な生徒への生徒の多様性を考慮した対応の困難さ
- ・継続性や持続性の確保（コアメンバーの拡充）

### (2) その他の類似の活動組織とのネットワーク化

- ・学童保育
- ・子ども食堂
- ・協働推進事業 ※教育委員会とNPO支援ボランティア団体との協働による学習支援活動

◇さいごに（取材しての感想）－「ふくろう塾の活動」と「地域と学校との連携・協働」－

・児童生徒の多様化に伴い、学校が抱える課題の複雑化・困難化がみられる中で、地域と学校との連携・協働の必要性を踏まえた対応

⇒ 連携・協働の推進

・地域住民自らが、子どもたちに積極的に関わり支援することにより子どもたちを育てていこうとする意識や実践力の高まり

⇒ 地域の教育力の高まり

・地域住民が絆を強め、力を合わせて子どもたちの学びや育ちを支援することを通じた活力ある地域づくり

⇒ 活力あるコミュニティづくりの推進

・大人と子どもが共に学び合い育ち合う地域の構築の動き

⇒ 学びを通じた持続可能な活力あるコミュニティづくりの推進

- 地域と一体となって子どもたちを育む、  
「地域と共にある学校」「学校と共にある地域」への転換の必要性を提示
  
- 地域と学校の連携・協働を推進するための  
「組織的・継続的な仕組みづくり」への発展の期待